

「企業論」期末試験問題

2003年2月3日実施

. 1～4の空欄を埋めて三つの文章を完成させるために、各文章について a, b, c の選択肢のうちからもっとも適切なものを選んで解答用紙にアルファベットで記入しなさい。なお「著者」とはすべて『現代アメリカ産業論』の著者のことである。(5点×4)

\* 第2章の著者によれば、成人喫煙者が喫煙のコストと便益を合理的に比較する能力があると想定した場合、成人者による喫煙の健康上の影響に関して公共政策がとるべき姿勢は、( 1 b ) というものである。

- a 喫煙している当人が被る健康上の負の結果に対してのみ関与する
- b 喫煙している当人以外の者が被る健康上の負の結果に対してのみ関与する
- c 未成年者の喫煙がもたらす健康上の負の結果に対してのみ関与する

\* 第7章の著者は、航空輸送業の規制撤廃に関して、( 2 a ) という見地をとっている。

- a 「競争促進を目的として1978年以後に規制撤廃を行ったことは妥当であったが、その後の集中度の増大とハブ空港支配が市場成果を低めたことは問題であり、競争の土俵を保護するための政策が必要だ」
- b 「1978年以後の規制撤廃が集中度の増大とハブ支配に帰結したのは、航空輸送業の自然独占的な性格を無視したからであり、そもそも規制撤廃は行われるべきではなかった」
- c 「競争促進を目的として1978年以後に規制撤廃を行ったことは妥当であり、新規参入者の増大と価格競争を通して効率の高い革新的な企業が生き残ったので、そうした企業によって集中度が高まり、ハブ空港が利用されることは望ましい」

\* 著者の一人は、フォード社が燃費の悪いスポーツ・ユーティリティ・ビークル(SUV)を最小の平均費用で生産できるかどうかよりも、そもそもそんな車をつくるべきかどうかの問題だと主張しているが、これは前者のような( 3 a )の問題よりも、後者のような( 4 c )の問題を重視するという見地である。

- a 静態的な経営効率
- b 動態的な経営効率
- c 動態的な社会効率

. 以下の問いに答えなさい。

『現代アメリカ産業論』の著者たちは、S-C-Pパラダイムと呼ばれる産業組織論の古典的フレームワークを採用している。それは、産業組織を3つの切り口によって分析するものである。著者たちのS-C-Pパラダイムにおける3つの切り口の内容、それらの相互関係、公共政策へのインプリケーションについて説明しなさい。(50点)

(解答例)

S-C-P パラダイムとは、市場構造・市場行動・市場成果の3つの切り口から産業組織を分析し、有効競争が確保されているかどうかを検証する見地のことである。S-C-P パラダイムは産業組織論研究の枠組みとして長らく標準的な地位を保ち、反トラスト政策の理論的根拠ともなってきた。

市場構造とは、市場における企業間の競争上の関係や価格形成のあり方を規定すると考えられる市場組織上の特徴である。そこでは以下のような要素が注目される。まず、ある特定の財またはサービスの市場における売り手および買い手の性格である。これは主として売り手と買い手の市場集中度によって測られるが、とりわけ売り手の集中度が重視される。この他、需要の安定性や周期的性格、製品差別化の程度、他の財・サービスとの補完性や代替性、需要や供給の価格弾力性なども問題とされる。次に参入障壁の高さである。これは規模の経済性やブランド確立、流通経路の支配などに依存する。

市場行動とは、各企業が市場の需給条件や他企業との関係を考慮して行う様々な意思決定行動を総括した呼称である。当該市場において企業がどのような行動を通して価格設定や非価格競争を行っているかが問題とされる。カルテルやプライス・リーダーシップ、マーケティングなどが取り扱われる。調達や研究開発における行動様式も射程に入れられる。

市場成果は効率性によって図られる。静態的な効率性は、配分効率(価格が限界費用と等しい)と生産効率(平均費用の最小化)で構成される。動態的な効率性は、技術が順調に進歩しているかどうかによって測られる。また環境汚染、社会的浪費などをもたらしているかどうかも社会的効率性として問題にされることがある。

S-C-P パラダイムは、特に市場構造の分析を重視する。というのは、主として市場構造が市場行動を規定し、市場行動が市場成果を規定する、という因果関係を想定しているからである。特に市場構造が競争的であるか、それとも独占や寡占によって競争が妨げられているかを重視する。「独占的構造 独占的行動 独占利潤」という関係が見られる場合、社会的には資源配分が歪み、効率が低下するからである。その政策的含意は、市場構造が非競争的であれば政府は反トラスト政策をもってこれに介入し、合併・買収の差し止めや企業の分割といった市場構造是正措置をとるべきだということである。

S-C-P パラダイムの説明がきちんとなされていれば、事例によって説明を補足したり、戦略的行動論や取引費用論の見地から S-C-P パラダイムを批判した見解を紹介することも加点の対象となる。